

Travel, Observe, and Create: Katherine Mansfield's Representation of Modern Tourism and New Zealand

大谷, 英理果

<https://hdl.handle.net/2324/4474911>

出版情報：九州大学, 2020, 博士（文学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（3）



氏 名	大谷 英理果				
論 文 名	Travel, Observe, and Create: Katherine Mansfield's Representation of Modern Tourism and New Zealand (旅・観察・創作：キャサリン・マンスフィールドによる近代観光とニュージーランド表象)				
論文調査委員	主 査	九州大学	教授	鶴飼	信光
	副 査	九州大学	准教授	高野	泰志
	副 査	九州大学	教授	小黒	康正
	副 査	相愛大学	教授	石川	玲子

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

上記の論文は、ニュージーランド出身の短編小説作家 Katherine Mansfield(1888-1923)のヨーロッパを舞台とする女性一人旅を扱った初期作品群から、彼女の記憶の中のニュージーランドを舞台とした円熟期の作品群までを分析対象として取り上げ、それらに描かれる旅とニュージーランド表象を検討するという独自の観点を基軸として、女性に課される性別役割に対する反発などの主題の表現がいかに関係され発展させられているかを解明するものである。

序論、結語以外に3部5章から成る本論文の第1部“Society Female Travelers”は、第1章で最初の短編集 *In a German Pension* 中のドイツを舞台とした4作品を取り上げ、“Germans at Meat”、“Frau Fischer”では家父長制社会で女性に課される役割を盲目的に受け入れている女性が批判的に描かれる一方、“The Modern Soul”、“The Advanced Lady”では、進歩を装いながらも、実際は伝統的な価値観に縛られている女性に批判的なまなざしが向けられていることを解明する。第2章では、旅のスケッチ“A Truthful Adventure”、“The Little Governess”と、E. M. Forster のイタリアを舞台とする初期作品群を取り上げ、両作家が近代観光の擬似イベント的な要素を批判していることを浮き彫りにするとともに、マンスフィールドが女性旅行者が旅行によって帰属する社会から分離し、既存の社会構造から解放される境界状態“liminality”に入るところまでは描きながらも、元の社会に再統合される局面は描かないという特質を明らかにし、マンスフィールドの関心が、女性が境界状態で経験する苦悩・危険、不平等な扱いのリアルさに向いていることを指摘する。

第2部“Journey into the Urewera Area”は、マンスフィールドがニュージーランドの奥地へ旅行した際の記録 *The Urewera Notebook* の分析を取り入れ、第3章で、ニュージーランドの辺境の地を舞台とする“The Woman at the Store”、“Millie”において、厳しい環境と孤絶した生活の中、辺境の特に高圧的な男性たちに抑圧され、女性が殺人や錯乱に追い込まれるほどの苦悩を強いられていることを、当時のニュージーランド国内における性別分業に関する歴史的背景を参照しながら考察し、第4章では、“How Pearl Button Was Kidnapped”と *The Urewera Notebook* でのマオリ族表象を考察し、旅行記ではマオリ族が抱える問題を記録しながらも、短編ではそれを隠蔽し幸福そうなマオリ族像を描いているマンスフィールドの態度の両義性を解明している。

第5章のみから成る第3部“Journey into Childhood New Zealand Memories”は、マンスフィールドの初期作品で顕著であった既存の価値観、とりわけ女性の性別分業への懐疑的なまなざしが、

子供時代の記憶に基づく彼女の晩年の3作品“Prelude”、“At the Bay”、“The Doll’s House”にも継承され、発展させられていることを独自に指摘するとともに、これらの作品に旅と非日常が象徴的に表象されていること、社会が課す性別役割に男性も苦しんでいることへの共感が描かれていること、既存の価値観に懐疑的な者同士のつながりというほのかな希望が示唆されていることを解明している。

本論文は、先行研究をよく踏まえながら新たな着目や解釈を提案することを積み重ね、旅での観察から多くの創作の糧を得たマンスフィールドの新たな側面を提示し、性別分業などに対する問題意識の初期から晩年期までの継承と発展を解明する、意義ある研究であると評価することができる。